



前千葉県議会議員

なか た まなぶ
中田 学

KokuminMinshu
Press 号外
編集部〒100-0014
東京都千代田区
永田町 1-11-1
press@dpj.or.jp
Tel03-3595-9988

千葉県 第8
総支部
柏・我孫子市版
2020年1月号

令和2年を迎えて

希望に輝く新年が幕を開けました。本年は東京都知事選をはじめ、東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されています。さらに国政においても、いつ解散があるかわからない緊迫した状況となっています。一方海外では、アメリカ合衆国大統領選挙が行われる予定の年でもあり、新年の幕開けと同時に、私は緊張感の走る一年になると考えています。

さて昨年は、私自身にとって大きな変化の年となりました。今までの県政活動を振り返りますと、ただまっすぐに、そして真剣に取り組み、邁進してきました。今は冷静な立場で物事を考えることができるようになり、政治活動はもちろんの事、諸活動に日々精進しています。

私は元来、県の膨大な権限と財源を、もっと地方自治体に移譲し、それを軸に地元のことを熟知していて、さらに小回りの利く、「各市町村が中心となった政治を行うべき」という信条があります。実際議員となって千葉県政で8年間に亘り活動し、仕事を担ってきました。しかし見えてきたのはあまりにも巨大な組織であり、地元からは見えづらい県庁そのものでした。

私はこれまで数多くの質問で登壇し、県政を少しでも動かせるよう努力してきました。「議員というのは意見を述べるだけでなく、それをいかに予算書に反映させるかだ」という恩師の言葉を懸命に心に刻み、おかげさまをもちまして千葉県政には、これまで多くの私の提言が県の予算に反映されました。ただ県の体質を根本から変えていくには、やはり県とがっちりタッグを組んだ国自体の体質を変えていかなければならないのも事実です。

国では一強体制が続く、横暴な政治が続いていますが、これは体質自体、千葉県政にも同じことがいえます。すなわち日本が今後、希望の持てる未来となっていくためには、対案の出せる政治、そしてそれを国民が真剣に選ぶことのできる政治環境を、国の根幹から変えていく必要があります。そのためにはまず「一強打破」が必要です。令和という年が2年目の新たな波に乗り、節目として東京オリンピック・パラリンピックを大成功に収めることができるよう、環境面はもちろんの事、経済面や国際面も含め、何事にも全力で活動していかなければなりません。

いずれにしましても、日本がこれからも平和で住みやすい、そして希望の持てる国となりますよう、私自身、全力で活動して参ります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

中田学 Profile

千葉県議会議員2期8年在職

【1973年3月15日生】46歳
北海道 室蘭市生まれ
柏市立光ヶ丘小、中学校卒
流通経済大学付属柏高卒
流通経済大学 経済学部卒
早稲田大学 人間科学部卒

柏市レスリング協会会長
柏市太極拳連盟会長
柏友舞踊協会後援会会長
柏市グラウンドゴルフ協会顧問
社会福祉法人童心会監事
グループホーム陽だまり理事

流经大柏 流輝会副会長
柏市中央倫理法人会幹事
柏稲門会
柏・北海道人会
柏ユネスコ協会
東葛山形県人会

中田学



地域が主権を担うこと、また行政は部局横断的に動くこと。

これまで千葉県議会議員として、県政での活動 2 期 8 年間を経験した中で、最も変えなければならぬと実感したことは、「各市町村が動きを起こさないと、県政からは能動的に動こうとしない」という実態でした。

「柏市が動いたら、私たち県も動く」では遅い！

例えば、私がこれまで数多くの課題に取り組んできた手賀沼問題一つとっても、エリアによって、ここは柏市、ここは我孫子市、ここは千葉県が維持管理・権限を担っているなど、私たち市民から見れば一つの手賀沼なのに、その権限は細分化されています。そのため例えば柏市が、県にリーダーシップを取って頂き、手賀沼全体に関する開発や構想の財源や、許可基準の問題で助けを求めたい、という事例があったとしても、千葉県の答えは「柏市が動いたら私たち県も動く」などという回答がいくつもあります。



国・県・市が相互協力できる体制を



まして国政といえば、中央のことばかりで地域のことは疎遠に感じやすいです。しかし例えば経営者の労基に関するお困りごとであったり、車のユーザー車検や名義変更などを行う陸運支局、また国道に隣接する民家の陳情、東日本大震災の影響で残ってしまった放射性廃棄物の最終処分について等々、実は私たちの身の回りのことでも、国は大きく関わっています。

こうした状況を如何にして国・県・市が手を取り合い一致協力して課題解決に向かっていくべきか。さらに行政についてもいまだ縦割り体質が残っています。そのためにはまず行政内の縦割り体質を排し各部局が横つなかりに協力して風通しのいいスタイルをつくる事、また今後例えば各市町村によるビジョンのアプローチがあれば、内容を精査して、国や県が率先的に動き、無駄のない、しかも課題解決に向けていち早く協力できる体制を取っていくべきと私は考えます。

二大政党制の確立、そして行政は横つなかりの部局横断的対応を

今の政治では、国も、そして県も課題解決どころか一党だけがすべてを握ってしまい、私たちには対案を選ぶ、そしてそれを通してもらう術がありません。今後の日本には、私たちの意見が届く二大政党制、そして縦割り行政を廃した横つなかりの部局横断的な政治が必要です。そのためにも私は、何としてもこのようなあるべき政治に変えていく、あるべきカタチを創りあげていかなければならないと考えています。



前千葉県議会議員 中田学事務所

〒277-0922 柏市大島田 290-2F

TEL 04-7128-8172 FAX 04-7128-8171

これまでのHPIはこちら。



mail : nakatajimuso@gmail.com URL : http://nakatamanabu.com

中田学

検索